

ドラゴ ムネ ヨ

空に歌い、大地を舞う

インドからスペインへ——果てしなきジプシーの旅
トニー・ガトリフが歌と踊りで綴る感動の音楽映像詩



Latcho Drom

1993年カンヌ国際映画祭〈ある視点〉部門賞 | 1996年全米映画批評家協会 NSFC賞

Distributed by CABLE HOGUE Co., Ltd.

Un film de Tony GATLIF avec Les musiciens tsiganes d'Inde, d'Egypte, de Turquie, de Roumanie, de Hongrie, de Slovaquie, de France et d'Espagne.

『ラッチョ・ドローム』=“よい旅を” この言葉を世界中のジブシーに贈りたい。
これは愛するわが民族への讃歌である。……………トニー・ガトリフ

『ラッチョ・ドローム』は『ガッジョ・ディーロ』『ベンゴ』等で今、世界中で注目されるトニー・ガトリフ監督の自らのルーツであるロマ(ジブシー)をテーマにした“ジブシー3部作”の最初の作品である。インド、ラジャスタンを出発点に、アジア、アラブ、ヨーロッパと、8カ国にまたがり長い流浪の旅路をついたロマ。彼らの奥底からわき上がる強烈な音楽を通してジブシー民族を語った感動の音楽映像詩であり、文字を持たないジブシーの歴史を彷彿とさせる。1000年に及ぶ追放のメモリーが、全編鮮やかな映像と音楽で彩られている。身体と音を通して細密にロマの生活文化/歴史の記憶を伝える彼らは生きる喜びに満ち、より人間的であることとを求めて懸命に生きている。
ジブシー音楽=“魂の叫び”という視点で描かれた彼らの姿は、今改めて我々に「生きることは何か?」「精神的豊かさとは何か?」を問いかける。



木の実に棒刺したような楽器すれすれ持って、裸足でひたすら西へ西へ。
それがどこかでバイオリンに出遭う。持ち運びに便利だっていう、あの小ささ、
そういうシンプルな理由で選ばれた楽器が奏でる音楽っていうのはもう、世界を混ぜこぜにしてしまうよな。
楽屋で彼ら、股引、脱いでくれなかった。それがほんとうにかわかった。
コレクション後の打ち上げでも、とうとうまた演奏会。
人と人との間に張ってるあのピリピリした神経網を一瞬にして切っちゃう、譜面のない世界。
別れた直後に紛争が勃発して、あいつらどうしてるだろうってずっと心配だった。……………山本耀司

近年、注目されているロマ(ジブシー)とその音楽。クロノス・カルテットとの共演、ヨウジヤマモトのバリ・コレクションへの出演など、今、数々のセンセーションを起こしているジブシー音楽を代表するミュージシャン、タラフ・ドゥ・ハイドゥークス。彼らの『ラッチョ・ドローム』への出演は一躍世界の脚光を浴び、昨年行われた日本での公演も大盛況を収めている。また、彼らをはじめとし、ピーター・ガブリエルとの共演で注目を浴びたエジプトのザ・ミュージシャンズ・オブ・ザ・ナイル、魂を揺さぶるような歌声を持つスペインのラ・カイータなど数々の強力、強烈アーティストが出演。ジブシー伝説『ラッチョ・ドローム』は多くの観客を新たな驚異と感動の世界に誘い込むだろう。

ジブシー民族を魂の奥底からとらえた、胸がうずくような映画。愛、敬意、寛大さ、発見心、喜びにあふれたカメラがとらえた驚異作。壮麗そのもの!……………『ル・ドゥヴォワール』カナダ
トニー・ガトリフは、驚異的な企てに成功した。『ラッチョ・ドローム』はジブシー民族の叙事詩的音楽映画。生来のミュージシャンでもある民族が奏でるサウンド・トラックも素晴らしい傑作だ。
……………『ブルミエール』フランス

LATCHO DROM ラッチョ・ドローム 1993年/フランス/カラー/35mm/103分/シネマスコープ
監督・脚本トニー・ガトリフ(『ガッジョ・ディーロ』『ベンゴ』)
製作:ミシェル・レイエガヴラス 音楽:アラン・ヴェベール 撮影:エリック・ギヤール(『モンド』『ガッジョ・ディーロ』『キャラバン』)
美術:デウニ・メルシエ 録音:ニコラ・D.V.・ペルクマン 助監督:アレクサンドル・ガヴラス
配給:ケーブルホーク <http://www.cablehogue.co.jp/> 協力:ダジュール企画

★オリジナル・サウンドトラック:ランプリング・レコーズ

「ラッチョ・ドローム」に出演!!
世界最強のルーマニアン・ジブシー・バンド

Taraf de Haïdouks
「タラフ・ドゥ・ハイドゥークス単独公演」
8.31 [fri] CLUB QUATTRO
「ジブシー・サマー・スペシャル」
出演:タラフ・ドゥ・ハイドゥークス、ヨチャニ・オーケスター
9.2 [sun] SHIBUYA-AX
(関)プランクトン 03-3498-2881 <http://plankton.co.jp>

「それでは皆様 “よい旅を”」
9/8(土)~21(金)レイトショー(8:15pm~)



ホワイトヒメ田泉の広場M-10右上がる東へ5分
扇町ミュージアムスクエア
☎06・6361・0088 www.oms.gr.jp

「タラフ・ドゥ・ハイドゥークス」
単独公演 in 関西
8/25(土) 大阪 豊能町立ユーベルホール (0727-38-7700)
8/26(日) 大阪 河内長野野ラブリールホール (0721-56-6100)
8/28(火) 京都 磔磔 (075-351-1321)